

「理系から公認会計士に」

中 越 一 統

昭和54年卒業（31回生）

私は現在公認会計士として会計系コンサルティング企業で会計・税務関連全般のアドバイス、M&Aの支援といった業務に携わっています。また日本ラグビー協会の監査委員としてもお手伝いさせていただいています。

会計士というと文系のイメージの職業ですが私は高校時代は理系で将来は科学者になりたいと思っていました。アニメの影響でイルカや鯨に関心を持つようになり生物系の学部に進路を決め、一浪して東大理科二類に入学し農学部水

産学科に進みました。部活は高校、大学ともラグビー部です。ラグビー部の練習は私にはきつくつらい日々でしたが、生涯の友と出会え、また精神力・体力が鍛えられましたのでラグビーを続けてきて本当に良かったと思っています。一方で学業のほうは、部活中心の生活となり成績は芳しくない上にいつのまにかイルカや鯨の研究者になりたいという気持ちもなくなってしまい大学院には進まず卒業後は就職することになりました。

農学部就職先は製薬業界、食品業界といったバイオ系が多く、私も技術者として食品会社に入社しました。配属は希望していた研究所ではなく本社となり残念に思っていました。上司から「“経営理論”のわかる技術者になりなさい。特に財務数値の理解は重要なので本社にいるうちに勉強しておくように」とのアドバイスをいただき、まずは簿記のテキストを購入し自分で学び始めました。これが今の自分の第一歩になったわけなので何が幸いするか分からないものです。

簿記は企業で日々起きている事象を数値にして記録する技術で、企業の業績の算出には不可欠のものです。簿記や会計は始めて学ぶ分野でしたのでとても新鮮に感じました。勉強が進むにつれ企業が製造する製品の原価計算や意思決定のための分析など面白いテーマが次々に出てきてすっかりはまってしまいました。いつのころかこの分野の専門職である公認会計士になろうと思いはじめ会社が終わった後専門学校に通って勉強を続けました。会計士の試験は“数”を扱う科目が多いせい理系の私には相性がよかったですと思います。運よく試験に合格することができましたが、会計士として登録するためには、試験合格後3年間の実務経験が義務付けられていたので監査法人(巨大な会計事務所)に転職しました。

公認会計士の主要な業務は会計監査という仕事で、監査法人に入社した新人はまず監査で経験をつみ専門家としての腕を磨くことになりま

す。会計監査とは企業が作成する決算等の数値を会計の専門家が外部の第三者としての立場でチェックすることでありこれは会計士のみが行うことのできる業務です。監査以外には、会計、税務、ITなど経営に関するコンサルティングサービスも重要な業務になります。私も監査業務からスタートしましたが、一般企業にいたせいか監査よりも企業の経営に関与できるコンサルティング業務に興味を持っていました。そこでしばらく経験をつんだ後に経営学を体系的に学ぼうと思い、休職をしてアメリカの経営大学院(ビジネススクール)に留学しました。トップレベルの学校には合格できませんでしたが、経営理論全般の知識と英語力も身につきましたので休職というリスクをとった価値はあったと思います。帰国後元の監査法人で勤務したのち外資系製造企業に入社しました。ここでは工場や本社での経理責任者および経営企画業務に携わり、アメリカ企業の経営手法を体験することができました。監査は企業を外部から見るわけですが、今度は企業の内部から見ることになりこの両面を経験できたことは大きな財産です、その後この会社の仲間と起業したものの失敗、という少々苦い思いをして現在の勤務先に落ち着いています。

私は高校のころ想像していたのとまったく違う職業についていますし周囲にもそういう人は多くいます。皆さんも将来についていろいろ考えていることと思いますが、この先考え方や環境が変わり新しいやりたいことに会うかもしれません。そういう時に体力、気力や学力等々の“基本的な力”があればサッと軌道修正することができます。新宿高校でしっかり遊び、学んでいればこの“基本的な力”は自然に身につくと思いますのでぜひ充実した高校生活を送っていただきたいと思います。

(朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)